

大変な仕事

松本セイラ

私の長男が三歳の時、幼稚園の先生が「お子さんが大きくなったら、どんな仕事に就かせたいですか？お医者さんですか？それとも弁護士ですか？」と聞いてきました。私は彼女に「何になるのかは本人が決めます。ただ、彼には他の人の気持ちが考えられるような人になってほしいです。」と伝えました。

その会話の後、私はそんな人を育てるにはどうすればいいか、ずっと考え続けました。それと同時に、子育ては私が経験した中で最も難しいことだなと感じました。子育ては楽しいだけではありません。息子のことを本当に理解し、困難なことでも諦めずに取り組める人間になれるように導く必要があります。そして、息子が周りの人から信頼されるには、約束を守ることや、所属しているコミュニティや周囲の人に対して真摯に向き合うことの重要性を学ばなければなりません。私はしばらくの間、息子たちに対して良い手本を見せるだけで良いと思っていましたが、それだけでは不十分でした。そして、そのことに気がついてからが大変だったのです。

私と夫は何度か夕食時に、食べ物を届けるために一生懸命働いてくれている人の話をします。私たちの食卓にいつも食べ物を届けてくれる人々に、感謝することの重要性を知ってほしいからです。息子たちがご飯を食べきれず捨ててしまったとき、食べ物を届けてくれる人々がどんな気持ちになるかを考えてほしいのです。

私は息子に毎日お弁当を作っていました。一時、彼のお弁当箱を見ると、半分しか食べていないことが続きました。なぜ食べられなかったのかを尋ねても、彼は毎日違う言い訳をします。「時間がなかった」「誰かに話しかけられた」「寒かった」「食べにくかった」など、数え上げればきりがありません。そしてある日の夕方、彼は、「気持ち悪い！もう食べたくない！」と言いました。そこが私の限界でした。私は、「そう思うなら、これからは自分でお弁当を作って良いよ。」と言いました。そのときは誰も私が本気でそう言っているとは思っていませんでした。

翌朝、私が本気であることに家族全員が気づきました。私はその日のお弁当に使える食べ物を並べて、「自分のお弁当を自分で作ちなさい。」と言いました。そして私がキッチンから去ると、家族全員が衝撃を受けました。夫が少し指導すると、息子は自分でお弁当を学校に間に合う時間までに作ることができました。その日から私の家庭では、人の努力に感謝することの大切さについて話すようになり、息子は毎朝キッチンでお弁当を作るようになりました。そして、健康を保つためには何を食べれば良いかを話し合い、息子は毎日お弁当を完食できるようになりました。

ここまでくるのは簡単なことではありませんでした。息子が好きな食べ物だけを与え続けるのは簡単な方法でしょう。しかし、そうしてしまうと彼は同時に他の人への感謝や尊敬の念を忘れてしまうでしょう。子育ては地球上で最も難しい仕事です。子どもを正しい方向に導くために、手を取り合ってこれからも一緒に頑張っていきましょう。